

5、認知症の進行による症状の変化とケアの流れ（症状は主にアルツハイマー型認知症について）

認知症の段階	初 期		中 期		後 期	
介護の必要度	認知症の疑い	認知症はあるが日常生活は自立	誰かの見守りが必要	日常生活に手助けや介護が必要	常時介護が必要	
本人の様子	◆物忘れがある ◆同じことを言う ◆お金の管理や買い物はできる ◆以前に比べて頑固になったり、自己中心的な考え方をするようになる ◆睡眠障害や不安感、うつ気分が現れることがある	◆物忘れが頻繁になる ◆少し前のことも忘れて何度も同じことを尋ねる ◆お金の計算が合わなくなったり、支払いにお礼しか使わなくなる ◆物を無くし、探し物が頻回になる ◆薬の飲み忘れがある ◆同じものを何度も買い、たまってしまう ◆会話のキャッチボールができにくい ◆怒りっぽくなる ◆身だしなみに気を使わなくなる ◆趣味をやめてしまう ◆火・電気の消し忘れ、水の止め忘れ ◆食事の支度ができなかったり、味付けがうまくできない	◆買い物やお金の管理など、これまでできたことにミスが目立つ ◆新しいことを覚えることができない ◆薬の管理ができない ◆季節や場に応じた衣服が選べない。 ◆電話や来訪者の対応ができない ◆通いなれた道で迷う ◆車の運転が危ない ◆文字が以前のように書けない ◆トイレの水を流し忘れることがある ◆風呂に入るのを嫌がる ◆時間の感覚があやふやになり、昼夜逆転する ◆我慢ができず、待つことができない ◆感情的になり怒鳴ったりイライラした様子がみられる	◆着替えがうまくできない ◆靴の左右を間違える ◆排泄がうまくできなかったり、失敗することが多くなる ◆風呂に入っても体がうまく洗えない ◆普段会わないような子どもや孫の顔がわからなくなる ◆時間や場所、季節の感覚がわからなくなる	◆排泄が自立できない ◆歩行が不安定になる ◆言葉の理解ができなくなり、指示や声掛けがわからなくなる ◆介護を拒否することもある ◆食事が一人でとれず介助が必要になる ◆飲み込みが悪くなり、むせることがある ◆自分で健康管理ができない	◆寝たきりになる ◆意思疎通が図れない ◆ゴクンと飲み込むことができなくなる ◆傾眠
家族が準備しておくこと	○認知症に気づいたら、早めに相談機関に相談しましょう。 ○早い段階で受診し、適切な治療を受けるため、かかりつけ医を持ちましょう。 ○認知症・介護の仕方・介護保険制度等について、積極的に学ぶ機会を持ちましょう。 ○認知症と診断された場合、必要によっては、親戚や友人、地域の人などに伝えて、協力を求めるようにしましょう。 ○火災報知機をつけたり、IH 調理器に変えたり、緊急通報装置をつけるなど、万が一に備えましょう。 ○特殊詐欺や消費者被害にあわないよう、周りの人が注意して見守りましょう。		○認知症の行動・心理症状が強い場合、かかりつけ医に症状を上手に伝えて適切な治療を受けられるようにしましょう。 ○介護サービスの利用を検討しましょう。 ○配食サービスなどの生活支援サービスを上手に利用しましょう。 ○よく道に迷ったり徘徊がみられる場合は、万が一に備えて最近の写真を撮っておきましょう。 ○介護者の集いなどに参加し、介護によるストレスを一人で抱え込まないようにしましょう。 ○運転免許自主返納支援を使って、運転をやめるきっかけにしましょう。		○介護サービスを上手にを使って、介護者が介護疲れで共倒れしないようにしましょう。 ○今後のことを家族や親族とよく話し合しましょう。必要によっては、介護施設の申し込みをしましょう。 ○かかりつけ医にアドバイスをもらい、最期をどのように迎えるか家族・親族でよく話し合っておきましょう。	
悪化を先送りするための試み	●社会とのつながりを持つ ●軽い運動を続ける ●本人が「楽しい」と思うことをする ●バランスよく食べる ●本人ができる役割をになってもらう ●規則正しい生活リズムを崩さない ●かかりつけ医と相談し、適切な薬物療法を受ける ●家族をはじめ周りの人の対応の仕方で穏やかに過ごすことができる		●本人ができることはなるべく続けてやってもらう ●服薬、食事が確実にとれるようにする ●身体機能の低下とともに転倒の危険性が高くなるので、安全な場所での機能訓練を続けたり、環境整備などを行う ●認知症の治療はもちろんのこと、糖尿病や高血圧など、認知症以外の慢性疾患についてきちんと治療が継続できるようにする		●廃用症候群や寝たきりによる合併症を予防する ●胃ろう（腸ろう）や人工呼吸器等、万が一の場合の延命処置を行うかどうか、家族で話し合いをしておく	

